

2017(平成29)年度活動・事業報告

(2017年4月1日～2018年3月31日)

2017(平成29)年度はどのような1年だったか 前進面と課題(大づかみの振り返り)

1. 小金原地域支え合いセンター開設を中止しました。

地域の多世代の交流拠点として計画した、小金原地域支え合いセンターの開設を中止しました。この後始末のために、20周年記念行事についても延期し、2018年11月に実施することとしました。小金原地域支え合いセンター開設を中止せざるを得なかったことは、多くのみなさんに期待いただいただけに、残念であり、大変申し訳なく思います。中止に至る経過の中から2つの教訓を学びました。①アクシデントなど予想しなかった事態にも対応できる強靱な財政力を持つこと②会内外の専門家の力を得て、事前の調査研究に力を注ぐことの必要性を学びました。

2. 金ヶ作を支え合い助け合いの新たな拠点にします。

3月に、事務所・みんなんちを金ヶ作に移転しました。真価を発揮するのはこれからですが、ここを拠点に、新しいみんなんちの開設、影響力を持てる生活圏域の拡大に力を注ぎます。また、小金原地域支え合いセンター開設中止、移転のために、延期した、2020年を目途とする中期計画についての検討を深め策定を行います。

3. 総合事業訪問型サービスのモデル事業の役割を果たしました。

2年間にわたる日常生活支援介護予防総合事業の訪問型サービスのモデル事業では、4000時間の活動を行いました。しかし、モデル事業の終了にともなう普及化には2年間の総括から、参加しないことになりました。ふれあいネットまつどは地域包括ケアシステムの構築、新地域支援事業の目指す方向に賛成の立場は変わりませんが、その具体化は行政主導ではなく、より柔軟で住民目線が必要だと考えます。

4. 本来活動のたすけあい活動は昨年とほぼ同じ時間数に。

たすけあい活動のうち有償ボランティアサービスは、本来事業であるふれあいサービスに元気応援サービスが上乘せされた活動実績となり、新規利用者の受付を抑制したにもかかわらず前年とほぼ同じ時間数でした。

5. 制度サービスの利用者数は拡大基調に。

制度サービスのうち、居宅介護支援(ケアプランサービス)は利用者数で119%、訪問介護(ホームヘルプサービス)は利用者数で117%と。ここ2年間の停滞から拡大へと基調を転じました。

6. 東日本大震災支援活動は被災者が主体となる活動に転換。

東日本大震災支援活動では、宮城県東松島市のサロン活動が軌道に乗り、松戸・東北交流プロジェクトは、新しい黄色いハンカチを目指して、当会移転後の跡地に引っ越しました。避難者交流と併せて、より地域とのつながりを重視した活動に転換していくことになります。

8つの柱の活動・事業の振り返り(まとめ)

第1の柱 ー 会員組織を強め、会員活動を豊かにするために

1. 会員総数は、設立以来最高の452人になりました。

会員おさそい運動を春に取り組み、ボランティア説明会を14回開催し、**新入会員が99人**、会員総数は452人、設立以来最大の会員数になりました。元気応援サービスの中止に伴い、非会員の利用者の40%の人が入会しました。

ただし、計画通りに入会が進まなかったのは、利用会員は、ふれあいサービスのキャパシティからくる問題であり、協力会員は、前年に比しておさそい活動が弱かったこと、比較的若い元気な高齢者の就業率が高くなっていることも影響しているものと思われます。

No.	種別	2016年度 入会数	2017年度 入会数	2017年度 期末在籍数
1	ふれあい会員(利用会員)	51	65	276
2	正会員(協力会員)	34	30	150
3	賛助会員	1	4	26
4	合計	86	99	452

2. 多彩な会員交流活動に取り組みました。

(1) 会設立20周年記念事業として、一泊二日の福島花見山を訪れる会員交流旅行を行い、東松島市のみなさんとともに福島の春を満喫した交流の旅となりました。

(2) また毎月の誕生会、恒例の敬老会、卓球・ボーリング大会などを開催、のべ569人が参加しました。

3. 運転者研修会を2回開催、定年制の導入をしました。

(1) 会員研修活動は、新入会員研修会、運転者研修会など、20回開催し、のべ127人の会員が参加しました。

項目	開催数	参加人数	内容
新入会員研修会	14	34	入会時全員受講
運転者研修会	2	63	運転協力会員 4月・12月
訪問介護員研修会	4	30	
合計	20	127	

(2) 会員参加で有償ボランティア活動の政策を検討する会議体として、ふれあいサービス検討委員会を立ち上げ、移動サービスの定年制の導入などを決めました。

第2の柱 - 困ったときはお互いさまのたすけあい活動

1. たすけあい活動(有償ボランティア)は、ほぼ昨年と同じ時間数に。

- (1) たすけあい活動の中核活動である有償ボランティア活動(ふれあいサービス・松戸市元気応援サービス)は、前年に引き続いて常に待機状態にもかかわらず、前年に比べて利用者数 104%、活動時間数もほぼ昨年と変わりませんでした。
- (2) 活動時間数では、ふれあいサービスは前年並みでしたが、松戸市元気応援サービスが上乘せされ、月間 540 時間の実績です。担い手人数は前年比 109%と、いう結果でしたがコーディネート複雑さは変わりませんでした。

2. 松戸市元気応援サービスモデル事業は役割を終えました。

- (1) 総合事業の訪問型サービスである松戸市元気応援サービスのモデル事業者を2年間担いました。この3月でモデル期間が終了するのに伴う普及化事業には参入しないことになりました。
- (2) 総合事業は本来、自主的で創造的な地域のたすけあいを応援するものであるにもかかわらず、松戸市の要綱は制度サービスとかわらぬ管理を求めており、残念ですが参加を見合わせました。

3. 高齢者・障がい者の相談支援(ケアプラン)が大きく前進。

- (1) 制度サービスでは、介護保険、障がい者総合支援とも、相談支援業務の質の向上と量的拡大を目的に取り組み、ほぼ目標通りの成果を収めました。居宅介護支援(ケアマネジメント)は利用人数(プラン数)で前年比119%、障がい計画相談は大幅に増加しています。
- (2) 訪問介護サービスは、新たな人材が入ったこと、個人別研修の実施などの成果が表れており、利用者数で前年比 117%の伸長です。

(有償ボランティア活動)

種類		2016 実績	2017実績			前年 増減	前年 対比
			ふれあいS	困りごと	合計		
利用者数 (人)	移動サービス	753	756				
	生活援助サービス	232	225				
	合計	1310	981	385	1366	56	104%
協力者数 (人)	移動サービス	323	353				
	生活援助サービス	195	211				
	合計	518	564		564	46	109%
時間数 (時間)	移動サービス	5477	3851				
	生活援助サービス	1033	885				
	合計	6510	4736	1733	6469	△41	99%

(制度サービス)

種別	活動(提供)時間数			利用人数		
	2017実績	前年増減	前年対比	年間実績	前年増減	前年対比
居宅介護支援				1418	226	119%
訪問介護	3341	0	100%	493	72	117%
障がい福祉	1292	△362	78%	111	△81	58%
合計	4633	△362	92%	2022	217	112%

第3の柱 - ふれあいの居場所みんなんち活動

趣味・介護予防などの講座がどれも人気が高く、参加者が増えました。

- (1)みんなんちの活動では、趣味・文化・介護予防などの講座がどれも人気が高く、7種類の講座をのべ90回開催、1020人の参加がありました。映画鑑賞・カラオケ・歌声などのイベント、紫陽花めぐり、クリスマス会など多彩な活動を行いました。
- (2)松戸市元気応援クラブモデル事業についても、毎週水曜日をみんなんち元気応援クラブとして活動しました。
- (3)「暮らしの保健室」を10月より始めました。ふだんのくらしのなかで、保健、介護、福祉、医療などを気軽に相談できる場として期待されます。

第4の柱 - 支え合い助け合いを広げる活動

さわやか福祉財団会長堀田力さんの講演会を開催しました。

- (1)支え合い助け合い(互助)の大切さを市民に広げることを目的に開催した堀田力さんの講演会には、市民を中心に106人の参加がありました。
- (2)広報まつど9月15日号・3月1日号に広告掲載、全国紙、地域紙などの紙媒体掲載が15回NHKTV・ラジオ、ちばテレビ、ケーブルTVなどでも取り上げられ、支え合い助け合い活動を広く知らせることができました。

第5の柱 - たすけあい活動の担い手養成事業

1. 福祉有償運送運転者講習会を3回、元気シニアの活躍サポート研修会を3回開催しました。

- (1)福祉・介護の人材養成事業として、福祉有償運送運転者講習会、元気シニアの活躍サポート研修会などを5回開催、131人を養成しました。

項目	開催月	参加人数
福祉有償運送運転者講習会	4月	32
福祉有償運送運転者講習会	7月	26
元気シニア活躍サポート研修会(移動サービスコース)	10月	28
元気シニア活躍サポート研修会(サロン・居場所コース)	11月	26
元気シニア活躍サポート研修会(生活支援コース)	11月	19
合計		131

第6の柱 - 東日本大震災被災者支援活動

「困ったときはお互いさま」の象徴的発露としての被災者支援活動

東日本大震災、福島原発事故から7年が経過し、避難指示区域の解除、住宅支援の打ち切りなど、復興に向けた状況は大きく変化してきましたが、避難者個々の生活再建の困難さは、多様で複雑になってきています。また社会の風化現象も広がっています。

こうした状況に対して、ふれあいネットまつどのミッションである「困ったときはお互いさま」の精神の象徴的発露としての被災者支援活動を2つの柱で取り組みました。

1. 被災者自身の活動としてサロンの運営が軌道に(宮城県東松島市)

宮城県東松島市被災者支援・交流活動として、牛網地区においてコミュニティサロン「東松島みんなんち」が1月に開設。以降毎月開催、百歳体操や裂き織り教室、クラフト講座など、地域コミュニティ再生に役立つ活動になっています。

2. 東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクトの取り組み

千葉県東葛地域の広域避難者に対する支援活動を、東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト事務局団体として、避難者交流サロン黄色いハンカチを拠点に取り組みました。福島県の自主避難者への2017年3月末住宅支援打ち切り問題を重視し、千葉県・松戸市との交渉、勉強会や交流会などに取り組みました。

主な活動	開催月	回数	参加人数
松戸・東北交流サロン(月～木/10時～16時)	4月～3月	205	2,066
講座・勉強会(サロン)	4月～3月	71	852
避難者交流会(サロン・流山)	4月～3月	13	127
避難者相談会	4月～3月	10	30
活動報告会	6月	1	71
3, 11大うたごえ喫茶&七回忌法要	3月	1	486
みらいフェスタ黄色いハンカチキャンペーン	3月	1	26
合計			3,658

第7の柱 - NPO・行政などとの協働事業

1. 介護予防・日常生活支援総合事業について、松戸市社会福祉協議会・松戸市シルバー人材センターとともに介護制度改革課と協議をすすめ、訪問型元気応援サービスとして、2016年3月よりモデル事業をスタートさせました。また体制整備事業第1層協議体委員を担い、第2層の設置に向けて協力しました。ふれあいネットまつどの目指す方針とは違った結論が出され、いったん撤退することを決断しました。新しいアプローチが必要です。
2. NPO・市民団体のネットワーク強化を目的に、市民福祉団体全国協議会・千葉県たすけあい協議会・まつど NPO 協議会・ちば NPO 協議会の役員を担いました。

第8の柱 - 組織運営・組織基盤づくり

1. 事務局組織での専門性が高まり、このことはよいことですが、他面、他部門の取り組み、会全体の取り組みへの関心がややもすれば薄れがちになっています。テーマ、取り組みごとのチーム編成など、組織運営の習熟が必要です。
-